慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	平成八年度 三田史学会大会プログラム ; 陳刑和(Chen Ching-Ho)君の訃
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1996
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.66, No.1 (1996. 9) ,p.139- 144
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19960900-0139

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

平成八年度　三田史学会大会プログラム

――平成八年六月二九日（土）――

研究発表

日本史部会

1　中世後期土地証文の一形態――備中洞松寺文書の同日付売券・寄進状を中心に――　慶應義塾大学（大学院修士課程）　村石正行

2　国持大名における養子相続と幕藩制――他家養子を中心として――　慶應義塾大学（大学院修士課程）　田原昇

3　第二回内国勧業博覧会と東京――盛田命祺『東行日記』を素材として――　慶應義塾大学（大学院博士課程）　日朝秀宜

4　熊本県天草郡中田村と人吉移住　慶應義塾大学　柳田利夫

5　古代の平野祭について　慶應義塾大学　三宅和朗

東洋史部会

1　自然災害と漢代豪族――被災民の救済――　慶應義塾大学（大学院修士課程）　村松弘一

2　初期イスラームの歴史家たち　慶應義塾志木高等学校　高田康一
3　清乾隆期における村役と民衆――『洞庭山禁革現草案』『禁革現総碑案』の世界――　慶應義塾大学　山本英史
4　ペルシャ湾イラン海岸の交易港遺跡――とくにキーシュ島遺跡の場合――　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所　家島彦一

西洋史部会

1　第二帝政末期における中央党の政策転換――エルツベルガーの党内活動をめぐって――　慶應義塾大学大学院修士課程終了　森川裕美
2　若きマルクスにおける国民の概念――リスト批判を中心に――　慶應義塾大学（大学院博士課程）　勝又章夫
3　「軍事財政国家」の成立と大英帝国――オランダはなぜイギリスに投資したのか――　京都産業大学　玉木俊明
4　イェルサレム王国のburgensis――一二世紀の首都イェルサレムを中心として――　広島大学　森竹弘喜

民族学・考古学部会

1　スキタイ文化における馬の埋納――黒海沿岸のクルガンからの馬骨出土の意味――　慶應義塾大学（大学院修士課程）　山田真弓
2　共同体の空間構成と囲壁――イスラエル中期青銅器時代の場合――　慶應義塾大学（大学院修士課程）　永井正勝

3　古墳時代初頭の土器分布圏の変容とその背景――口縁部形態の統計的分析――　慶應義塾大学（大学院修士課程）　北村尚子

4　後古典期ナワトル神話における火のシンボリズムと時間概念　慶應義塾大学（大学院修士課程）　井関睦美

シンポジウム

テーマ　中国神話学の現在

報　告

黄帝伝説異聞　慶應義塾大学　森　雅子

湖北省漢族の伝承神話――『黒暗伝』の一考察　立教大学　谷野典之

敦煌の王権神話　京都大学　金　文京

総括・コメント　慶應義塾大学　伊藤清司

司会　慶應義塾大学　桐本東太

三田史学会総会

懇親会

三田史学会常任委員・委員（平成8年7月～平成9年6月）

常任委員

会長　高橋正彦

庶務　柳田利夫、山本英史、清水祐司、棚橋　訓

編集　坂井達朗、坂本　勉、鈴木公雄、神崎忠昭
会計　山本英史
会計監査　犬塚富士夫、湯川　武

委員、
日本史　峰岸純夫、鈴江英一、井奥成彦、長谷山彰、糸賀茂男
東洋史　尾崎　康、山城喜憲、森　雅子、三沢伸生、野元　晋
西洋史　田辺三千広、宮前安子、森岡敬一郎、米田　治、坂口昂吉
民　考　小川英雄、近森　正、藤村東男、阿部祥人

陳荊和(Chen Ching-Ho)君の訃

国際的に知られた東南アジア史家である塾員、創価大学名誉教授、本塾大学言語文化研究所客員所員陳荊和君(字孟毅、号蒼崖、洗礼名 Augustin Georgès)は、かねて病気加療中のところ薬石効なく九五年一一月一九日午後六時三〇分肺不全のためホーチミン市において客死された。享年七八歳。

同君は一九一七年九月二八日台湾に生まれ、番町小学校、麻布中学校を経て本塾大学文学部史学科に進み、故松本信廣教授について東南アジア史を学び四二年九月卒業、言語文化研究所の前身である語学研究所助手に任用されたが、四三年三月日本・仏印交換学生としてベトナム語と東南アジア史研究のためハノイの極東学院に留学、同地で終戦を迎え台湾に帰国された。四六年一二月から台湾大学、次いで五八年八月ユエ、サイゴン両大学、さらに六二年から香港中文大学に迎えられて、東南アジア史、華僑史、日本研究の諸講座を担当、八一年香港中文大学リーダーを最後に退職された。その後日本に移り、八二年四月創価大学教授に就任された。この間ユエ大学ベトナム史料編訳委員長、香港中文大学中国文化研究所長、創価大学中国文化研究所長、創価大学アジア研究所長等の要職をつとめられた他、客員教授として本塾大学、南イリノイ大学、ソウル大学、高麗大学、北京大学に出講されるなど、意欲的に活躍された。また一九六六年には『安南訳語の研究』により本塾大学より文学博士の学位を受け、八六年にはSGI平和文化賞を授与されている。九三年三月創価大学を退職後は夫人と共にカリフォルニア州オークランド市に移住、創価大学環太平洋平和文化研究センター顧問に就かれていた。『十六世紀之菲

律賓華僑』（香港、一九六三年）など研究業績の一覧と詳しい経歴については、『創大アジア研究』第一五号に掲載されている。

なお九五年一一月二四日現地で仏式の葬儀が営まれたが、故人の遺志により遺骨はオークランド市に移され、市内カトリック教会において改めてミサをあげた後、太平洋を見下ろす墓地に埋葬されたと聞く。謹んで御冥福を祈る。